

2018年11月26日(月)

11/28(水) 西日本豪雨[平成30年7月豪雨]支援 中間報告会 岡山県倉敷市からゲストを招いて、現地の声をお届けします。

平成最悪の豪雨災害といわれる西日本豪雨[平成30年7月豪雨]から、4カ月以上が経ちました。大勢の方たちが避難生活を送っていた避難所の多くは閉所され、被災家屋の片づけも進んできています。一方で、報道が少なくなり、社会的な関心が薄れていく中で、まだまだ継続的な支援やボランティアの手を必要としている地域もあります。ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)では、発災当初から各関係機関と協働し、岡山県倉敷市にて被災者の支援活動を展開してきました。これまで被災者の生活再建に携わってきた、倉敷市、倉敷市社会福祉協議会、まちづくり推進協議会からゲストをお招きし、それぞれの立場から避難所や災害ボランティアセンターなどで発生した課題や実施した対策など生の声を伺い、今後の取り組みについて検討します。
報道関係者の皆さまにも、ぜひ当日の取材などご協力いただければ幸いです。

■ 2018年 西日本豪雨支援 中間報告会

- 【日時】 2018年11月28日(水) 16:30 - 18:00 (受付:16:00~)
【場所】 新宿区 NPO 協働推進センター501 (東京都新宿区高田馬場 4-36-12)
【費用】 500円
【登壇者】

《パネリスト》

- ・倉敷市選挙管理委員会事務局 副主任 高槻直樹さん

倉敷市内で最大の避難所となった岡田小学校の避難所開設者。避難所の閉所まで運営に関わる。柔軟に支援団体を受け入れ、日々起こる避難所内の課題を解決していく。最後の一人まで、避難者に寄り添い様々な視点から支援を展開し個別課題の対応を積極的に実施した。

- ・倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課 主任 山本知穂さん

災害前から、被害の一番大きかった倉敷市社会福祉協議会真備事務所の担当職員。発災後から災害ボランティアセンター(箭田サテライト)の運営スタッフを担う。また、真備町の生活支援コーディネーターとして個別支援から面的支援まで、住民の想いをカタチにしていくサロン活動や集いの場を実施し、丁寧な支援を続けている。

- ・箭田まちづくり推進協議会 守谷美雪さん

真備町箭田地区でご自身も被災し、自宅は全壊被害を受けた。発災後は、二万小学校避難所にて避難生活を送る中、直後から災害ボランティアセンター(箭田サテライト)の運営に関わる地域のキーマン。災害前からまちづくり推進協議会で活発に活動しており、現在はこれからの真備町の復興に向けて住民の声を拾い最前線で活動している。今後はNPOの立ち上げも検討中。

- ・ピースボート災害ボランティアセンター 現地コーディネーター 辛嶋友香里

《ファシリテーター》

- ・ピースボート災害ボランティアセンター 理事/事務局長 上島安裕

● このリリースに関するお問い合わせは、

ピースボート災害ボランティアセンター 担当:小林 TEL. 03-3363-7967 MAIL. kyuen@pbv.or.jp